

令和5年度第4回川崎市社会教育委員会会議図書館専門部会 会議録（確定版）

日 時 令和5年2月26日（月） 10:00～12:00
場 所 中原図書館多目的室
出席者 委 員 菅原委員、今野委員、渡部委員、吉田委員（副部会長）、青柳委員（部会長）、千委員、
渡邊委員、平木委員、小野委員、元木委員
図書館 横田・川崎図書館長、土屋・幸図書館長、小島・中原図書館長、澁谷・高津図書館長、
舟田・宮前図書館長、丸山・多摩図書館長、小嶋・麻生図書館長
事務局 中原図書館 能塚・庶務係長、笛木課長補佐・資料調査係長、
飯草課長補佐・図書館ネットワークシステム担当
庶務係 伊藤主任、荒井会計年度任用職員

庶務係長

- ・ 会議の成立 10名の委員の出席があり、川崎市社会教育委員会会議規則第6条第6項により過半数の定数を満たしましたので、本会議は成立したことを報告いたします。
- ・ 公開（傍聴） 本日の会議の傍聴の方は3名です。

<開会>

部会長 只今より、令和5年度第4回川崎市社会教育委員会会議図書館専門部会を開催させていただきます。今日まで2年間、研究協議を続けてまいりましたが、本日が最後となります。本日も効率的に議事を進行し、できるだけ時間短縮をしていきたいと思っておりますので、皆様、ご協力ください。それでは、事務局から資料の確認等をお願いします。

庶務係長 本日お配りしました資料の確認をさせていただきます。まず本日の次第でございます。

- ・ 資料No.1 令和5年度第3回川崎市社会教育委員会会議図書館専門部会会議録（案）
- ・ 資料No.2 令和4・5年度川崎市社会教育委員会図書館専門部会研究活動報告書（案・未定稿）でございます。

その他事業関係資料といたしまして「かわさき図書館だより第63号」「市制100周年事業 イチ推し本」広報チラシでございます。あと、渡部委員から「いぬくら子ども文庫だより」の配布があります。

また参考資料として今後の市民館・図書館のあり方冊子（令和3（2021）年3月 川崎市教育委員会）の毎回持参をお願いしております。不足しているものなど無いでしょうか。資料については以上でございます。資料No.2につきましては、未定稿ですので、取扱注意とさせていただきます。会議終了後回収させていただきますのでよろしくお願いいたします。資料の確認は以上でございます。

<議事録確認>

部会長 続いて、議事録の確認をお願いします。

庶務係長 資料No.1をご覧ください。令和5年度第3回専門部会会議録でございます。前回の会議録について、ご連絡いただきました修正を反映させた案をお示ししております。修正部分は網掛けにしております。

部会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。よろしければ、これで承認いたします。
(委員承認)

部会長 次に次第に従い、報告事項に移ります。事務局からお願いいたします。

資料調査係長 それでは事務局の方から2点報告させていただきます。まず「かわさき図書館だより」に掲載されている内容について簡単に御説明させていただきます。一面ですが、令和6年1月28日に開催されました読書普及講演会でございます。こちらは国学院大学助教で元フィギュアスケート選手の町田樹さんを講師にお招きして開催いたしました。高津市民館大ホールで開催し、スタッフを含めた参加者は500名程ということで定員とほぼ同じ人数で開催することができました。内容としては、3つのテーマを設定し、それに沿ったお話をさせていただきました。参加者の声を聞きますと、「話が大変分かりやすかった」「見やすかった」「しばらく読書から離れていたけれどもまた本を読みたいと思った」という感想が多数寄せられて大好評のうちに終わりました。

続いて裏面を御覧ください。令和5年10月から導入された「かわさき市立図書館アプリ」の紹介でございます。改めてアプリのPRをこちらの方に掲載してございます。図書館カードを忘れて来館してもスマートホンにアプリをダウンロードし、初期設定すればカードと同じように使えますとPRをさせていただいております。またアプリから図書館ホームページにアクセスしたり、メールを見なくてもアプリで図書館からの通知を見ることができるプッシュ通知、読書記録の保存、蔵書検索などができます。

三面では、急遽昨年11月末にご逝去されました山田太一氏の追悼記事を掲載しております。長らく川崎市にお住まいになって、川崎市の名誉文化大使を務められたり、図書館での読書普及講演会の講師をお願いさせて頂いたり、多大なる貢献をいただき、今回掲載させていただきました。また4月26日に多摩市民館で開催予定の講演会、今回はジェーン・スーさんをお招きして、すでに定員以上の申し込みがあったと聞いております。

続きまして四面の方に移ります。左上の方から、読書のまち・かわさきの読書活動優秀団体に2団体が選ばれたという報告、その右側につきましては昨年の11月18日に開催されました「川崎フロンターレ選手と本を読もう」の報告を簡単にさせていただいております。中段以降が中原以外の各館の紹介とトピック的な記事を掲載しております。

それからピンク色の紙資料を御覧ください。今回の63号からの試みです。職員が選んで地域資料を月1回ホームページに掲載していますが、昨年10月以降掲載分から厳選した8冊を図書館だよりと一緒に紹介させていただいております。今後も図書館だよりを年

に3回発行していきますが、それに合わせて地域資料図書案内も出していきたいと考えています。図書館だよりについては以上でございます。

次の黄色のチラシをご覧ください。川崎市制100周年を迎えるにあたりまして、その一つの事業として「川崎ゆかりの作品 あなたの『イチ推し本』大募集」と題しまして募集をかけていくものでございます。川崎市にゆかりのある作家や著名人、川崎市を舞台にした作品・川崎市の歴史とか自然、文物をとりあげた作品を市民の方から募集いたしまして、最終的にはリスト化して未来、100年後にも残せる作品という形で今後公表していきたいと考えています。3月19日から募集を開始していきますが詳細はまだ掲載しておりません。3月19日と同時に応募にあたっての諸注意的なものも公開していきたいと考えております。私からの説明は以上でございます。

部会長 ありがとうございます。ただいま、図書館から報告等がありましたが、全体を通じてご質問などはありますでしょうか。

今野委員 川崎を知るといふ試みはすごく良いですね。

資料調査係長 ありがとうございます。

部会長 他はいかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

（発言なし）

<協議事項>

部会長 それでは協議事項に入ってまいります。

本日は今期の図書館専門部会のまとめとなる「研究活動報告書」（案）の、最終確認につきまして協議をしていきます。既に各委員には、資料2「研究活動報告書（案）」を事前にお読みいただいていると思いますが、はじめにこの「活動報告書（案）」につきまして、事務局から、修正点及び、前回からの修正に係る経過等について説明をお願いいたします。

庶務係長 それでは「令和4・5年度図書館専門部会研究活動報告（案）」につきましてご説明させていただきます。すでにメールにてお知らせしておりますが、前回12月22日の第3回専門部会で頂いた各委員の皆様からのご意見をふまえ、年明けに報告書本文のデータを送付させていただき、それに対して直接口頭やメールで修正案をいただきました。以上を基に反映させまして、文言の修正を行い、専門用語や語尾の言い回し等について、わかりやすくするため、一部を言い変えたり、また写真の追加、枠線の太さの統一や整理等、体裁を整えることを行いました。

その上で、部会長・副部会長に、改めて全体をご確認頂き、いただいたご意見をふまえて修正を行い、現時点での最終案として取りまとめ、印刷業者に入稿し、初校原稿を2月17日時点で再度各委員の皆様にご送付させていただいたところでございます。今日お示ししているものは、17日にお示ししたものから、体裁等、少し追加修正を行いましたので、そういった部分を見え消しで少し残しておりますけれども、そういった経過を踏まえ今日現在での最終版ということで資料2をお示しさせていただいております。修正部分についても記

載の順に示してございます。以上になります。

部会長 ありがとうございます。ただいま研究活動報告書の構成や内容の確認をいただきました。この2年間のテーマに沿った検討、研究内容がまとめられたものになっていると思います。報告書は今日の専門部会の確認を経て確定となります。

 本日は最終確認ということで、軽微な修正等がありましたら、この場でもご意見等をいただきそれをふまえ協議し確定したいと思います。この件につきまして各委員からご意見等がありますでしょうか。

 （体裁について、数字の全角、半角や送り仮名について指摘等あり）

部会長 内容が固まってくると次の段階として表記が気になりますね。ご指摘をふまえ、できるだけ統一していただきたいと思います。他にはいかがでしょうか。

渡邊委員 19 ページの文字が読みにくいのですが。

庶務係長 お配りした資料はコピーなので読みにくいように見えますが、実際の印刷冊子は明瞭に印刷されますので大丈夫です。

小島館長 本日いただきました御指摘につきましては整理をいたします。先ほどの「取り組み」の表記については、「あり方」では名詞・動詞で書き分けております。基本的にはそれに基づき整理をさせていただきます。ただ、部会長からも御指摘いただきましたように、感覚的にどちらがよいかという部分もあるかと思しますので、事務局で整理をさせていただきまして、もう一度フィードバックさせていただきますので、確認をいただいた上で印刷という形に持っていきたいと思います。今年度中に発行ということになります。3月中には印刷ができますので、各委員にお送りさせていただきます。

部会長 ありがとうございます。それでは今回が現在の委員による最後の専門部会になる訳ですが、活動が続けてきた中で各委員から振り返り、感想などをいただきたいと思います。お一人ずつ、順にお話いただければと思います。

渡邊委員 毎回色々なテーマを決めて色々な意見をうかがえて勉強になりました。この年になるとすぐ忘れてしまうので振り返りが難しくて学んだことをうまく活かすことができにくい状況ですけれども、長く係らせていただいて本当にたくさんの問題点、改良点がある中で図書館の職員の皆さんがとても努力してくださっているというのは、この会を通じていつも感じております。感謝の気持ちを中々表すことができないのですけれども、しっかり図書館の活動に携わらせていただきながら、子どもたちが幼いころから携わっていけば大人になっても離れることなく図書館利用が続けられていくというところをめざして小さい子どもたちに係らせていただいております。今後もそれは続けていきたいと思います。感想とは少し違うのですが、ゆかりの作品の中で、物故者の先生方や係の方がこんなにたくさんいらっしゃったということを感じさせていただきましたけど、今現在活躍されている方というのはもっと多いのでしょうか。

資料調査係長 本日の資料は物故者を掲載しておりますが、物故者に限らなくてもよいと考えておりますので、3月19日に詳細を発表したいと考えております。

渡邊委員 できれば今活躍されている方のお名前がわかればその方の本を今読みたいと思われるのではないかと思います。

資料調査係長

広く募集してそれを今後残したいものという形でお示しをして、それに親しんでいただくような機会になればいいと考えています。

渡邊委員

よろしくお願いします。

渡部委員

川崎の読書を良くしたいということで色々発言させていただきました。文庫活動を続けていく中で、学校に行けなくても文庫に来る子がいたり、目に見えるものがありました。子どもたち自身が求めているけれども場所がない。制度面もあるのですが、子ども達を見守るコミュニティー、あるいは子どもだけでなく青少年とかも含めて色んな地域の見守り体制みたいなもの、その上に図書館があつていいのかな、図書館の役割とはそういうものがあると思いますし、そういうことを含めて図書館という一つの枠を少し広げていくことも必要と思いながら、この間話をさせていただきました。色々な思いがありながら、報告書をどうなおすかというときに、非常に困りまして、ただ地域の問題については地域の連携だということを書き加えさせていただきました、そういった修正はしたのですが、多様な子どもに対応する図書館になるためには、こういうことを検討したいということはいれさせていただきました。

具体的にどうかと言いますと、私は無償で自分の生活を投げ打ってやっていますが、そういうボランティア的なことではやりきれない部分がある訳です。そういうものについての図書館の制度はどうあるべきなのかということについて、もう少しやりたかったと思う、これからの課題だと思ったりもします。「おわりに」の部分で、指定管理制度の導入ということについて私も意見を書いたのですが、はっきり言うと議論したことは無いのですね。報告を受けただけです。意見交換したと書いていますけど、どうなのかと思います。意見は出しましたが交換はしていないのですね。そういう点ではすごく気がかりです。つまりこれについてみんな本音で腹の底から自分の意見を言っているかということではなくて、なんか表面的な話で終わっている印象だったのですね。それは勝手な思いかもしれないけど、いいのか悪いのか、また底辺にある子どもの思い、住民の思い、それから生きている姿、経済的にも辛い状況が続いていますよね。相対的貧困率は13パーセントの人が食べるのにやっとということです。本を買うことができない。大学にも行くことができない。全国的に13パーセントの家庭がそういう状況に置かれている。そういう子どもたちに対してどういう助けを図書館として、やるのかという問題について、それをからめて指定管理を制度の問題として語るだけでなく、諸課題を含めて語りたかったしそれを議論したかった、けれども議論できていないのではないのかということを感じています。そのことをどう書いたらよいかわからなくて、直しきれなかったということがあります。今後そういうことを思いながら、地域の人々の思いを受け止めるような文庫なり、諸活動を進めていき、そのことを図書館にもお願いしたいし、そういう形で今後も係わっていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

今野委員

初めて参加させていただいて2年間議論に加わらせていただきました。ありがとうございました。毎回議事録を拝見するたびに自分の口頭での説明がやや伝わりにくいということがわかって、修正等依頼して大変申し訳なかったと思います。本当に自分にとっては貴重な体験で、図書館の方針、人づくりとかつながらづくり地域づくり、この方針すら全然知

らなかったもので、非常に意義深く感じました。私の知識不足もあるのですが、一般の人たちにとってもそうなのかなと思い、「見える化」ということを提案させていただきました。実際に見える化という言葉が契機に、行っていることをわかりやすく伝えようとか見える化しようといった動きになっていると思ひまして、それは私にとっても大変嬉しいことでした。2年おきにこういう報告書をまとめられていて素晴らしいと思います。企業も川崎の行政もそうだと思うのですが、毎年翌年の事業計画を立てて年度末に実績をレビューしますよね。なので、この報告書を教育委員会の方に提出された後、教育委員会の方でどのように動いたのかとか、提言の中のどれを実行しましたということが、私たちにも次の委員の方にも分かるような形になるとより有意義になると思ひました。どうもありがとうございました。

菅原委員

これをまとめられた方は苦勞したと思ひます。これから社会教育委員会議に報告される、冊子だけが出ていくのか、また委員長に館長が報告する場があるのか、ただ冊子として流れていくのだったらもうこんなことは止めた方がいいとも感じます。2年間を要してこれ一冊できました、このようにまとめました。読んでください。これではただやっているだけにすぎないですね。どれだけ何をどう変えていったかということは、もう私たちは提言したにしても、その後はわからないのです。なので、ぜひこれは部会長さんなりが冊子を少なくとも社会教育委員会議に報告する場があって然るべきかと思ひますので、ぜひ頑張っしてほしいと思ひます。これから色々指定管理が始まるので募集要項が出来上がると思ひます。その流れをつかむところがないのですよ。実際私も指定管理をいただいて5年間受託しました。自分たち出した者は、他のところを見られないのですよ。自分のところしかわからない。あなたのところは点数でいうとこうでした、すごいトップでした。そういうように指定管理の動きっていうのは指定管理を出した人さえわからないという状況です。自分のところが取れたというその結果はどうだったということは聞くことはできますよ。あるいは、どんなことをしようと思ひるか述べるチャンスはありますよ。でも他のところがどんなことをどのようにやろうとしているのか、指定管理が動き出して初めてわかる。ぜひ指定管理が動き出しても市民なり関係者がその状況を把握できるようにする。恩恵を受けているのは市民ですから、市民から見てそこがどうかというところの件を聞いたり意見を述べたりできるような機会をこれからも是非作っていただきたい。それにはこの専門部会だけではこれからどのようなことになるのかとそこら辺が少し不安になります。今日傍聴者もいらっしやって熱心にそれぞれの団体が運動していらっしやると思ひますけれど、そういう一般の市民の方たちにも把握できるような状況というものを、これからも指定管理に向けた動きの中で、また運営が始まってからも市民の意見が聞けるようにしていただきたいと思ひておりますのでよろしくお願いします。

小野委員

2年間ありがとうございました。私は PTA 協議会という立場で参加させていただきましたが、このような場で2年間にもわたって、色々な立場の人が集まって図書館について様々な協議を重ねているということを初めて知り、とても役に立ちました。来年度からおそらく小学校全校に学校司書が配置されます。司書という立場でもこういう場があるということを、学校司書も資料相互提供というかたちで図書館にお世話になりますので、学校司書

等にもこういう場があることをお伝えできればいいと思いました。2年間ありがとうございました。

元木委員

2年間お世話になりました。今期は会議が重なりほとんど出席できなかったのですが、やはり表紙にありますように行きたくなる図書館ということで、中学校でも市立図書館に足を運べるような体制をつくっていききたい。そのためには各学校にある図書室の充実を図っていききたいということで、年1回連合文化祭で、図書委員の集いで各校の情報交換をしながら、どうやって生徒を自分の学校図書館に呼ぼうかという工夫を情報共有しながら行っていますけども、現実には昼休みしか開館しないので、図書が好きな生徒数人が利用していて、あとは校庭に出て遊ぶとか、教室でギガ端末を見て情報を集めているような体制があるので、その辺をまず自分たちの図書館に人を寄せていこうということで工夫しております。やはり読書の素晴らしさというのを伝えていこうという工夫で情報交換しながら進めておりますので、この会のものを参考にしながら中学校でもしっかりとやっていきたいと思っております。2年間お世話になりました。

平木委員

毎回勉強させていただくことがたくさんあって有難かったですし、ここに来るのがとても楽しみでした。本当にありがとうございました。「まちに出ていく図書館」というのも実際やってくださって、ここでお話したことが、図書館の方々が毎回実際にやっていってくださる。声に出して良かったという思いと、やってくださるのは大変だなというように思っていて感謝しております。私、「まちに出ていく図書館」のところでもお話したのですが、やはり広報をもっとしてほしいということもお話しました。それに関しても本当に色々実施していただいて、すごく図書館だよりも読んでみたい内容とか形になって、皆に見せちゃおうかと思うのですが、色々考えていただいてよかったと思います。ホームページも使いやすくてすぐ自分が見たいところに行けて、改善していただきました。学校の副読本の方も御案内が来て各学校から寄贈してくださいという内容のお手紙が来て、この学校ではこれとこれはありますがこれは出ていませんというところまで全部お示ししていただいたのでありがたかったと思います。毎回色々なことをやっていただけてすごく嬉しいです。

幸市民館に行くときも幸図書館も、利用者がいつもたくさんいてどこの図書館でも利用者は増えているのではないかと思いますし、近所の子たちが大事そうに図書館のカードを持っていて見せてくれる。そんなこともすごく新鮮だったし、利用者が増えてきているのではと最近思っています。指定管理が導入されるということなのですが、とても心配なのですが、サービスが絶対に今を下回らないように工夫してやっていただきたいと思いますし、私も応援していきたいと思っています。ありがとうございました。

千委員

会期の後半の方は授業があったり、海外に滞在していてオンラインでの参加だったので、改めて報告書を見ると、やはり図書館で様々なことを行っているのを可視化できたのかなと思っています。ただやはり図書館単独ではなくて地域とか関連部署などと一緒に色々なことを行っているということが明らかになったと思いますので、今後指定管理者制度が導入されると、中々業者自体は他部署とか市民と積極的に交流したり打ち合わせするのが難しいのかと懸念していますので、直営館のところがしっかりサポートしていた

だいて、報告書にもありますように今以上のサービスをしっかり展開できるようにすることを願っております。2年間ありがとうございました。

副部会長

17 ページの4分の3が指定管理者制度の導入について書いてあります。やはりここの辺りが今回の話し合いの中のどうしても避けられない部分で、今まで何年間か係わってきたのですが、これまでの研究協議は職員の方々の創意工夫であったり、私たち委員の色々なアイディアとか市民に向けてどんなサービスができるのだろうかという観点から意見を述べてきたのですが、この指定管理者制度というのは、そういった職員や我々の意見が通るものではなくて、失礼な言い方ですが、上から降りてきたようなものだから、それについてどうやって情報を得るかというのが一番要めだったのですね。ですからここにも書いてあるように、担当部局との情報共有・意見交換ということを大事にしてきた。それは当然だと思います。その内容について書くことは、前回の報告書案の11 ページで部会長が修正案を書いています。非常に微妙な文章が書いてあるのですが、ここの箇所にはやはりわれわれ委員のメンバーの考え方をどう反映するかというのは難しいところだと思うのですが、これからの協議会の話し合いの中心はどうしても指定管理者制度のところに触れていくことになる。それがどういう形で市民へのサービスに寄与できるかというような観点でこの協議会が機能していかなければならないのではないかと思います。ですから、中段に指定管理導入館で提供されるサービスの動向を注視と書かれているのですが、やはり指定管理者導入館でどういうことが進められてきているかということを各館が共有しあって、よりよい市民サービスがどうできるかということを考えていかなければならないのではないかと思います。

ですからやはり指定管理者制度というものを利用者へのプラスになるような形でうまく運営していただきたいということを常に切に思う訳です。研究活動に色々携わってきましたけれど、今回は新しいテーマである指定管理者制度というものをどう考えていくかということの出口がそこに見えてきているというそのような立場に立ってきたのだという風に思いました。ですから今後このことはどうしても避けられない問題だからこのことについて触れながら研究協議を進めていかなければならないのではないかと思います。以上です。

部会長

ありがとうございます。最後に私から振り返りをさせていただきます。今期は今後の市民館・図書館のあり方、こちらがベースになっていて、その中に示されている3つの視点があったと思います。「行きたくなる図書館、まちに飛び出す図書館、地域の‘チカラ’を育む図書館」ですね。この3つの視点を基にして、さらに「人づくり、つながりづくり、地域づくり」、この3つの枠組みで、皆様方からいただいた御意見がどの“づくり”に属するかというような観点で分類したり検証したりしましたが、中々難しかったのではないかと思います。それを最終的に報告書としてとりまとめていただいた事務局に感謝しております。

報告書ができてみると、皆様の御意見が比較的3つの方向性、人づくり、つながりづくり、地域づくりにうまく収まる形で話が進んでいったのではと振り返っております。この内容を基に、今後図書館におけるサービスをさらに充実していただけるといいのではない

かと感じております。また指定管理者制度については、この専門部会で扱うということでもそもスタートしている訳ではないので、その部分についてどう取り扱うのかというのは非常に悩ましいというか難しい問題だと感じておりました。吉田副部長もおっしゃっていますが、今後どう向き合っていくのかという問題はあると思いますので、このことについては、そもそもこの図書館専門部会の設立趣旨との兼ね合いもあると思いますので、その辺は事務局と相談しながら係わり方を検討していくということになるのかと感じています。

2年間多岐に渡り、ご議論いただきありがとうございます。もう少し時間があるようですので今日ご参加いただいている各図書館長の皆様にも専門部会の振り返りについて少しお話ししていただけたらと思います。川崎図書館長からお願いできますでしょうか。

横田館長

川崎図書館長の横田でございます。2年間、委員の皆様におかれましては大変お疲れ様でございました。私個人も大変勉強させていただいて通算で7年、テーマとして4テーマに係わせていただいて、報告書ができると全部読み込んできたのですが、図書館がこうした現代的課題に対してどう対応していくかということをいつも頭に入れておりました。今回の行きたくなる図書館、まちに飛び出す図書館、地域の‘チカラ’を育む図書館、これにつきましては令和3年に教育委員会の方で出てきました「図書館のあり方」でうたわれている3本の柱でございますけれど、これもいつも視野に入れて事業展開をしてきたところでございます。今後もそういった現代的課題が提起されるのだと思いますけれど、実は私は今年でこの職を降りることになりますけれど、図書館に携わっていけるならばこういった課題を自分なりにかみ砕いて頑張っていきたいなと思っております。今後、来期以降も充実した議論がこの場でできることを願っております。ほんとうにこの専門部会に係らせていただいて勉強になりましたし、感謝の気持ちでいっぱいでございます。どうもありがとうございました。

土屋館長

幸図書館の土屋でございます。図書館は高津と幸の2か所でそれまで図書館にいたことがなくて、いきなり図書館にきてあまり知らなくて、図書館に来て勉強させていただいたのでこの専門部会の中でも非常に勉強させていただきました。日頃私は図書館の中で、ちょうど過渡期という風に感じているところでございます。それは指定管理の話もそうですが、デジタル化の話とかそういうことがどんどん進んでいって、個人的には紙の本があり建物がある伝統的な図書館が好きで、光景的には子どもたちだけで図書館にふらっと来てちょこんと閲覧席に座って本を立てて読んでいるという姿が本当に大好きで、こういうような場所が、安心して子どもたちがふらっと来られるという場所がこのまま続けばいいのということをいつも思っています。その光景を見るのが好きで、今デジタル化が進んでいる中で、図書館は紙の本の良さとか、紙質とか紙の匂とかああいうのも私は新鮮で、これから一定デジタル化が進んでいく中でもそういうのを子どもたちに知ってほしいし、継続して続けていければと思っております。そういうのも含めてあり方の話とかが出てきて、専門部会の中でもこれからの図書館の話についてもみなさんの中から色々話をいただいたので、それを受けながら、昔から続いている伝統的な図書館も引継いでいながら、新たなニーズとか社会性に対応していきながら図書館に関与していければと思っております。

澁谷館長

高津図書館の渋谷です。4月から高津図書館の勤務になりまして、振り返ったときに全

部の区で何某の仕事をして最後高津に来たんだと思います。図書館だけではなくて色々なところの窓口で仕事したりもしましたが、全部の区で仕事をさせていただいたことをふまえて、個人としての地域とのつながりってとても弱い、地縁がない高津だったのですが、図書館をハブとして色んな人たちとつながりがある、図書館のつながりの強さを日々感じております。立地条件とか人工とかの関係で高津はどうしても外に出ていきにくいところ、区役所から電車で1駅2キロぐらい離れていたりして、今行きたくなる図書館とか地域の‘チカラ’を育む図書館というところに力を入れているところで、今回の提言などもまた取り入れさせていただいて、さらに愛される図書館をめざしていきたいと思っているところです。2年間どうもありがとうございました。

舟田館長

宮前図書館の館長をしております舟田と申します。今年度どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。私は今期から館長になりまして、図書館は長いのですが、麻生図書館を出発しまして中原、宮前ということでまいりました。2年間皆様に御議論いただきまして拝見させていただいたときに感じたこと、またこの報告書を拝見させていただいて感じたことを述べさせていただきます。やはり今までの図書館というあり方みたいなものが少しずつ変わる時代になってきているのかと思います。本を読むところというよりは、居場所的な機能をもつような形に変化していると思っております。また少子高齢化という意味では、その辺も情報の把握しつつ、図書館が何をすべきなのかということも考えていかなければならない、あとは賑わいの創出というものも図書館が担うという他都市の事例なども見ております。また連携ということで先ほどお話もありましたけれど、図書館だけではことは進みません。色々なところと連携していくということで図書館が地域のハブになって人が集まる、そこから発信していくというような場になるのかと感じております。特に新宮前の方に携わっておりますので他都市の事例なども見ているのですけれど、色々和社会情勢なども変わってきておりますので、そういうところを汲みながら、図書館って少し有機体的な意味合いをもつのかなと思っております。私自身 16 ページの真ん中、例えば人づくり、つながりづくり、地域づくり、この人づくり云々というところなのですが、ここがまさにこれから我々はすごく把握していかなければならないところだと思います。職員が結局地域のことを知る、あとは事業者ニーズを知る、そういったアンテナみたいなものをしっかり持って、指定管理になったとしてもそこで我々が職員がグリップをしっかり握っていくということで指定管理の方も質の良い利用者サービスができるのかなと思っております。私の個人的意見になりましたけど 16 ページのこの部分のところはこれからはもしっかり見ていかなければならないと思っております。

丸山館長

多摩図書館の丸山でございます。毎回皆様方のご議論とかご意見をお聞きして恥ずかしながら知らないことが分かっていなかったこととかが色々ありました。大変勉強させていただきました。改めて思ったことですが、図書館側と住民の皆様と一緒にあってよい図書館を作っていくのだというのを再認識させていただきました。どうもありがとうございました。

小嶋館長

麻生図書館の小嶋と申します。私は今年図書館に来て一年目ということで色々勉強させていただきながら参加させていただきました。この研究活動につきましては2年間にわた

り協議されてきたということで本当にありがとうございます。麻生区は長寿日本一ということでございまして、図書館の利用者も私が見るところではけっこうお年寄りが多いと思います。そんな中で、地区ごとでのサービスの違いというのも肌で感じながら務めているところでございます。今後10年後の未来にむけて図書館の役割、サービス等をどのように実現していくのかということが書かれておりますけれど、そのとおりだと思います。図書館運営をさらに充実させるために頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

小島館長

中原図書館の小島です。2年間、部会長・副部会長を始め委員の皆様にご議論いただきありがとうございました。皆様からいただきましたご意見はこの研究報告書にまとめられましたが、本日ご感想をお伺いするとともに協議したかったことがあったのではないかと思います。またこの報告書がどう活かされるのかということもご意見をいただきました。今回のテーマとしました図書館利用における「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」と「見える化」を考えることは、これで完成なのではなく、これからどれだけ図書館が実現できるのか、「あり方」がこれからの10年を見据えて実現させていく内容が課題になっている訳ですので、今回いただきました「行きたくなる図書館」や「まちに飛び出す図書館」などと、「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」と「見える化」をしっかりと確認しながら各図書館が責任も持って行っていく必要があります。また指定管理者にも当然この報告書は読んでもらわなければなりませんし、現在行っていることは指定管理者も全てやっていくというのが原則です。今後はこの専門部会に地区館の指定管理者の館長も出席することになると思います。先ほど副部会長からもこれからは指定管理の議論は必要だろうという御意見をいただきました。たしかに図書館全体として重要な改革ではありますので、無視することはできないのですが、次期専門部会でも1年目はまだ指定管理が始まっておりません。次期委員の皆様がどういうテーマを設定されるかということにもよりますが、2年目には橘分館が図書館としては指定管理に入りますので、社会教育施設としての指定管理をどう見ていくのかというように少し視点を広げる必要はあるのではと考えます。今回の報告書は、指定管理者制度導入の過渡期ということもありまして、消化しきれていない部分があったかとは思いますが、ただ今後も協議を継続しながらよりよい図書館運営をめざしてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。今回この報告書に基づいてこれからの10年間に「あり方」を実現させていくための一つの指針となるものができたと確信しています。皆様の研究・協議が無駄にならないように職員全員がしっかりとやっていかなければならないことを肝に銘じなければなりません。この2年間お忙しい中お集まりいただき、貴重な御議論をいただきましたことに御礼申し上げます。2年間本当にありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。それでは本日は以上となります。皆様、2年間お疲れ様でした。